



弦楽合奏団

エテルニータ

第15回コンサート

2018. 7. 8 [日]

14:00 開演 (13:30 開場)

宇都宮短期大学長坂キャンパス
須賀友正記念ホール

ごあいさつ

本日は弦楽合奏団エテルニータ第15回コンサートにご来場いただき、誠にありがとうございます。早いもので結成15周年という節目を迎えることができました。15年前宇短大及び同付属高校の卒業生を中心に結成した当合奏団は、できるだけレベルの高いアンサンブルを目指して一步一步確かな歩みを進めて参りました。

今回も指揮者に諸岡範澄氏をお迎えし、氏の温かく、しかも内容の深いご指導で練習して参りました。

またピアノ独奏には阿久澤政行氏をお迎えし、ハイドンのピアノ協奏曲を演奏します。阿久澤氏は宇短大オーケストラの指揮者として迎えられ、昨年の須賀学園「彩音祭」での「新世界交響曲」では見事な指揮と演奏を披露されました。

作曲家の山田栄二氏の作品は今回で4回目ですが、以前作曲されたものをエテルニータの為に弦楽合奏用に編曲してくださったものです。私たちに馴染みやすいメロディで、しかもハーモニーやリズムが斬新でどことなく懐かしさの中に新しい「和」を感じる事ができます。

結びに日頃の皆様のご支援に深く感謝しますとともに、なお一層の精進をお約束して15周年演奏会のあいさつとさせていただきます。

弦楽合奏団エテルニータ



PROGRAM



パーセル

アブデラザール組曲

H. Purcell : Abdelazer, or the Moor's Revenge

J.S. バッハ

フーガ ト短調

J.S. Bach : Fuge g-moll

ハイドン

ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob.XVIII-11

J. Haydn : Piano Concerto in D major Hob. XVIII-11

《ピアノ独奏：阿久澤政行》

*** 休憩 ***

山田栄二

東北地方の三つの民謡 ～弦楽オーケストラのための

エルガー

弦楽セレナーデ ホ短調 Op.20

E. Elgar : Serenade for String Orchestra E minor Op. 20

パーセル: アブデラザール組曲

「アブデラザール」は別名を「ムーア人の復讐」と名付けられた劇音楽で、その中から、序曲～ロンドー～エア～エア～メヌエット～エア～ジグ～ホーンパイプ～エアの9曲を選曲して組曲としたものがこの作品です。最後に2曲目のロンドーをもう一度演奏する事により統一感を図ってみました。このロンドーは、プリテンが「青少年のための管弦楽入門」の主題に使ったことによってとても有名になっています。

J.S.バッハ: フーガ ト短調

バッハにはオルガンのために書いた規模の大きいト短調のフーガあり、そちらを大フーガと呼び、このフーガはそれと区別するために小フーガと呼ばれています。原曲はオルガン曲なので弦楽合奏用にアレンジがなされていますが、編曲者の名前は判明していません。親しみやすい冒頭のメロディは大変人気があり、他のジャンルの音楽にもよく引用される事があります。

ハイドン: ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob.XVIII:11

何曲かあるハイドンのピアノ協奏曲の中で最も多く演奏されるのがこの曲で、1782年ハイドンが五十歳の時に書かれました。モーツァルトの若い頃の作品と言っても差し支えない程の優れた内容で、弦楽合奏の他に二本のオーボエとホルンが加わります。名高いピアニストであるアルゲリッチの愛奏曲で、優れた録音もいくつか残されています。

第1楽章 ヴィヴァーチェ

第2楽章 ウン・ポコ・アダージョ

第3楽章 アレグロ・アッサイ(ハンガリー風ロンド)

山田栄二: 東北地方の三つの民謡 ～弦楽オーケストラのための

七年前の東日本大震災の衝撃の後、栃木県チェロ協会から委嘱されて書きました。今回、チェロのみの編成から弦楽合奏にする事によって音域を拡大し、細部に手を入れ、前奏や間奏をプラスして結果的に5分近く長くなっています。岩手県の「南部牛追い歌(動物たちへの哀歌)」、宮城県の「大漁唄い込み(海の汚染の恐れ)」、福島県の「相馬盆歌(民衆の復興)」をメドレーにしたものです。

エルガー: 弦楽セレナーデ ホ短調 Op.20

エルガーと言ったらまず思い浮かぶのは、「威風堂々」や「“謎”変奏曲」のニムロットのようなたっぷりと歌われるイギリス国家風旋律でしょう。しかしこのセレナーデは、規模が小さく繊細で非常にセンスの良い愛すべき佳品となっています。エルガーのまだ下積み時代に、3回目の結婚記念日のお祝いとして八才年上の愛妻キャロラインに捧げられたそうです。

第1楽章 アレグロ・ピアチェヴォーレ

第2楽章 ラルゲット

第3楽章 アレグレット

Eternita

弦楽合奏団

指揮 諸岡範澄
 ヴァイオリン 青柳敬子 赤羽根洋子 *奥村琳
 *打保早紀 川俣洋子 小松崎倫子
 *高橋真二 土屋恵子 福富恵子
 ヴィオラ 川沼文夫 ◯中村淑江 *諸岡涼子
 チェロ 荒川育子 ◯君島茂 瀬畑むつみ
 コントラバス 増山一成
 オーボエ ◯青木嶺 ◯宮本菜摘
 ホルン ◯関澤麻衣 ◯上林汰太

◯団友 *エキストラ

弦楽合奏団 エテルニータ

私たち弦楽合奏団エテルニータは、第8回定期演奏会から諸岡範澄氏を指揮者に迎え、さまざまな楽曲に取り組んできました。

特にバロックや古典派の音楽に造詣の深い彼のご指導の下、毎回の演奏会の曲目になるべく1曲はそのような楽曲を取り入れ、ご指導をいただきながら勉強を続けてきました。

その時代の音楽にはいろいろな「約束事」があり、我々はその「約束事」を再現しようと努力を重ねています。

例えば、楽器の自然な音色のばらつきを醸し出すために、開放弦を多用するのもその1つであり、諸岡氏は「開放弦の響きは、最も神に近い響きである。」と度々おっしゃいます。バロック～古典派の時代のオーケストラでは、ナチュラルトランペット(自然倍音のみ演奏可能)が、天使の吹奏する最も神聖な楽器とされていましたが、弦楽器ではそれに匹敵する音を4つだけ持っており、それが開放弦なのです。当時、神を賛美する内容の楽曲のほとんどが二長調という調性で書かれていましたが、二長調は、指で押さええない開放弦特有のきらびやかな音色を多く使用できる音階を持つ調性の代表的なもので、ヴァイオリンは二長調の音階では、4本の開放弦が全て使えます。それと比べて開放弦があまり使えない音階の調性では響きが曇るため、当時の作曲家は悲しみ、悩み、苦しみといった内容に適した調性として選び、楽器の音色の不均等を前提として作曲していたのです。

不均等という概念を前時代的な悪いものとして徐々に否定するようになった19世紀、その中頃に確立し、今日まで続いている現代の弦楽器のメソッドでは、開放弦の使用を極力避けるように指導しますが、それでは調性毎の音色の違いがほとんど生まれず、ただ高いか低いかの違いしか出ないため、それ以前の時代の作曲家たちの意図した響きとはかけ離れたものになってしまうのです。

また、8分音符が連続して進行する楽曲やフレーズでは、敢えて8分音符を不均等に、3連符に近い音価で演奏します。これをイネガルと言い、この時代の音楽には欠かせない奏法です。

そのようなバロックや古典派のさまざまな「約束事」について、毎回丁寧に、しかし決して妥協することなく熱心にご指導していただきます。

諸岡氏を指揮者として招いてから今回の演奏会が8回目となりますが、特に1曲目のパーセル作曲「アプデラザール組曲」、2曲目のJ.S.バッハ作曲「フーガ ト短調」、3曲目ハイデン作曲「ピアノ協奏曲 二長調」においては、当時の音楽の響きや作曲者の思いを再現できるよう、練習してきましたので、「約束事」を念頭に置きながら聴いていただければ幸いです。

(文責: 諸岡範澄、小松崎倫子)



指揮 諸岡 範澄

国立音楽大学器楽科卒業。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第一位受賞(Trio van Beethoven)。バッハ・コレギウム・ジャパン、P.ヘレヴェッヘ、A.ピルスマ、クイケン兄弟ら、内外の演奏家と数多くの演奏会CDレコーディングに参加。宗教曲、世俗曲を問わず声楽曲の通奏低音奏者としても豊かな経験を持つ。またモダン・チェロ奏者としてもソロ、室内楽等の分野で活躍する他、作曲も手掛ける。1997年指揮者としてデビューし、これまでハイドン、モーツァルト、シューマン等4枚のCDをリリース。1999年「第13回古楽コンクール・山梨」審査員を務める。2000年韓国国立ソウル芸術大学におけるバロック音楽セミナー講師として、また漢陽大学学生による「コレギウム・ムジクム・漢陽」の指導者として招かれ度々訪韓している。2007～08には西東京市主催企画「ベートーヴェンの学校」(校長・西原 稔)で音楽監督を務める。バロック・古典派にとどまらず、ロマン派から近・現代に至る幅広い指揮レパートリーを持ち、またプロ・アマチュアを問わず奏者の自主性を引き出す指導力にも定評がある。「東京五美術大学管弦楽団」「オーケストラ・Mzima」「東京女子大学カレッジストリングス」指揮者。「ひたちなか楽友会」講師。「オーケストラ・シンポジオン」音楽監督。



エテルニータ顧問・作曲・編曲 山田 栄二

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファーブル昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。1999年県文化奨励賞受賞。



ピアノ 阿久澤 政行

宇都宮短期大学音楽科ピアノ演奏専攻コース卒業後、武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業、及び同大学院首席修了。クワイター賞受賞。平成23年度文化庁海外研修制度研修員としてハンガリー国立リスト音楽院で研鑽を積む。第3回A.サリエリ国際コンクール(伊)ピアノ部門第1位ならびに総合グランプリ「サリエリプライズ」受賞。第7回モーツァルト国際コンクール(伊)第2位。ハンガリー国内をはじめ、ヨーロッパでの多数の演奏会に出演。宇都宮市民賞受賞。NHK交響楽団コンサートマスター篠崎史紀氏率いる「まろとN響の仲間たち」にて共演。また、2015年より指揮者としての演奏活動も本格的に始まり、音楽の幅をさらに広げている。現在、ミュージックアカデミー東京講師。宇都宮短期大学音楽科専任講師、同附属高等学校音楽科講師。ミヤラジオFM「阿久澤政行のおいしいクラシック」メインパーソナリティー。